

アルコール依存症者の再飲酒を予防する看護師の役割

○服部 颯汰（准看護師）¹⁾ 奈良岡 妙子（看護師）¹⁾ 小田島 早苗（看護師）¹⁾
澁谷 卓（作業療法士）²⁾

医療法人耕仁会札幌太田病院 1) 急性期治療病棟 2) 作業療法・音楽療法課

【はじめに】

当院では、北海道札幌市依存症専門医療機関として、アルコール依存症（以下 AL 症）の治療を行っている。AL 症者は再飲酒の危険性が高く、再飲酒により離脱症状など身体面への影響や家族等の関係性の悪化、社会復帰への影響があるため断酒が重要である。当院の AL 症治療プログラムは、疾患教育、認知行動療法、内観療法、作業プログラム、自助グループ（以下、自助 G）などが治療の柱である。今回、当院の AL 症者へのアンケート調査結果を考察し、看護師の具体的な役割を検討する。

【方法と対象者】

AL 症と診断を受けた入院者、外来通院者、デイケア通所者、その他の計 25 名へ注意事項を説明したのち、選択式アンケートにて調査を実施した。

【結果】

1. 再飲酒予防の為に最も役にたつと思うもの：①抗酒剤 9 人（36%）②デイケア 8 人（32%）③外来通院 7 人（28%）④自助 G 1 人（4%）
2. 再飲酒予防の為に最も継続が難しいもの：①自助 G 12 人（48%）②内観日記 7 人（28%）③外来 3 人（12%）④デイケア 2 人（8%）⑤抗酒剤 1 人（4%）
3. 自助 G の継続が難しいと選択した 12 名の断酒歴：①1 年未満 9 人（75%）②1 年以上 3 年未満 1 人（8%）③3 年以上 2 人（17%）
4. 自助 G の継続が難しいと選択していない 13 名の断酒歴：①1 年未満 4 人（31%）②1 年以上 3 年未満 5 人（38%）③3 年以上 4 人（31%）
5. 自助 G に参加している 7 名の断酒歴：1 年未満 2 人（28.5%）②1 年以上 3 年未満 3 人（43%）③3 年以上 2 人（28.5%）

【考察】

最も役にたつと選択されたのは抗酒剤だった。抗酒剤を服用すると、心理的な飲酒抑制が働き、飲酒欲求に対する不安が軽減されると考える。また、最も継続が難しいものとして、自助 G を選択した者が 48%を占め、そのうち 75%は断酒歴が 1 年未満であった。これは、AL 症が否認の病と言われているように感情や批判が先走り、自助 G で体験談を聞くことが難しいためと考える。重黒木は「セルフヘルプグループについての正しい知識の啓蒙を図り、共に参加する姿勢が看護の大きな役割である」と述べている。そのため、日頃から患者と関わる機会の多い看護師が本音や悩みを話せる場を提供していく必要がある。そして、AL 症のもつ否認を一つの回復過程と捉え、自助 G を通しその変容過程に寄り添った支援をすることが重要である。今後は、本研究で得た知見をもとに AL 症の治療における看護師の役割を実践し、再飲酒予防を支援していきたい。